

実践『ペルソナ』通信 (No.71)
「学校に履いていくボトム (春物・夏物)」に関する調査結果

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「学校に履いていくボトム (春物・夏物)」についてアンケート調査を実施しました。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計学科 (担当：竹内光悦)」、「経営学 (担当：篠崎香織)」、「マーケティング (担当：斉藤明)」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を科学する研究会です。

総括

今回の調査を通し、実践女子大学の学生はボトムを選ぶ際に、女子大を意識する人が少ないことが分かった。女子大のイメージとして短いスカートが多いと予想する人が一番多かったが、あまり履かないボトムの質問に対して短いスカートと答えた人がと二番目に多かったため、イメージと実際は違うという結果になった。また、最も多く持っているボトムは長いパンツが圧倒的に多かった。天候や授業後の予定などでその日に履くボトムを決める、変える人が多いことも分かった。

調査結果のポイント

- (1) 持っている枚数にばらつきがある
- (2) 一番多く持っているボトムは長いパンツ
- (3) 普段あまり履かないボトムは丈の短いものが多かった
- (4) 服を選ぶ際に女子大を意識する学生は約2割
- (5) 女子大生のイメージは短いスカート
- (6) 天候によって履くボトムを変える人は約8割
- (7) 授業後の予定によって履くボトムを変える人は約7割
- (8) ボトムを買うときの基準はデザイン
- (9) ボトムにかかる値段は半数が3000~5999円

調査概要

- ・調査対象：実践女子大学
- ・調査方法：Google フォームを利用したインターネット上でのアンケート調査
- ・調査期間：2018年5月30日~2018年6月7日
- ・有効回答者数：130人
- ・回答者の属性：実践女子大学生 1年生：42人 (32.3%)
2年生：40人 (30.8%)・3年生：48人 (36.9%)

本件調査担当

実践『ペルソナ』研究会

3年 富田絵里香

西尾優花

西川綾香

袴田千咲紀

調査結果データ

(1) 持っている枚数にばらつきがある

持っているボトムの枚数を調べたところ、8～10枚所持している人が27.1%、5～7枚が所持している人が23.1%、と多く見受けられた。次に多かったのが16枚以上所持している人の21.5%で、次に5枚未満の10.8%、11～13枚の10%、13～15枚の6.9%と続いた。16枚以上所持している人は少ないと予想していたため、三番目に多かったのは、予想外であった。洋服に興味やこだわりがある人とそうでない人などで、差が出ているのかもしれないが、全体的にばらつきのある結果になった。

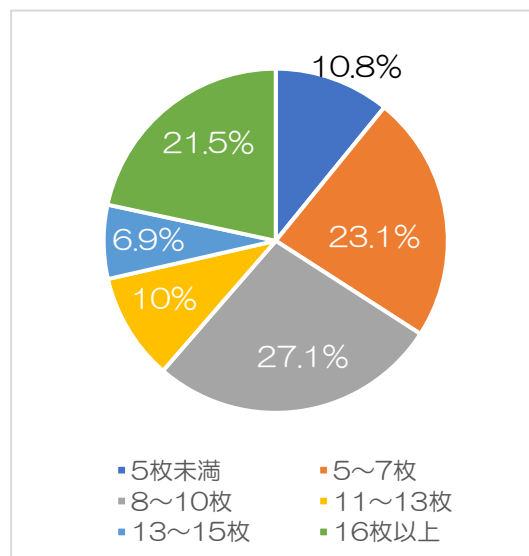


図1 持っているボトムの枚数（ワンピースは含めない）(n=130)

(2) 一番多く持っているボトムは長いパンツ

一番多く持っているボトムは何か調べたところ、56.9%に当たる74人が長いパンツと答え、長いパンツが半数を超えるという結果になった。反対に短いパンツは3.8%で5人と、同じパンツでも長さが違うだけで、大きく差が出る結果になった。また、二番目に多かったのは、20.8%に当たる27人が回答した長いスカートであった。長いパンツと長いスカートを合わせると、長いボトムは全体の77.7%を占めている。これらの結果より、実践女子大生には、丈の長いボトムが支持されていることがわかる。

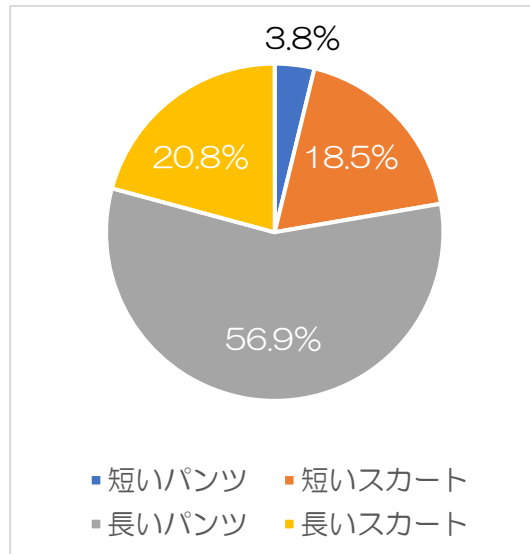


図2 一番多く持っているボトム (n=130)

(3) 普段あまり履かないボトムは丈の短いものが多かった

大学にあまり履いていかないボトムを調べた結果、短いパンツが61人で46.9%、短いスカートが51人で39.2%と、丈の短いボトムを回答した人が112人に当たる86.1%を占めていた。この調査からは短いボトムが支持されていないことが分かった。(2)の調査で、一番多く持っているのは長いボトムと答えた人が多かったことと、(3)の調査で、履かないボトムは短いボトムが圧倒的に多いことから、実践女子大学では、丈の長いボトムが支持されていることが、さらにはっきりした。

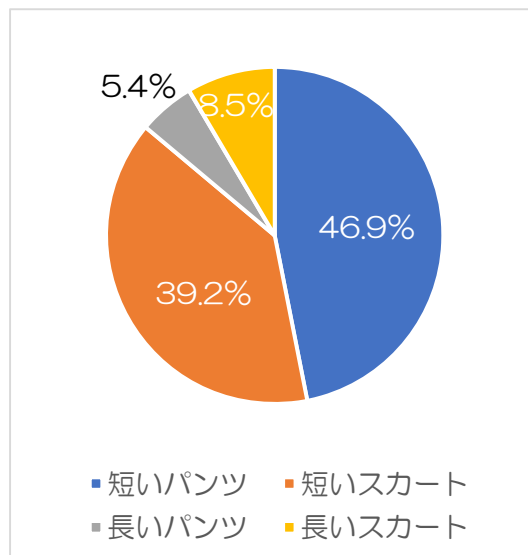


図3 大学へ普段あまり履いていかないボトム (n=130)

上の調査と同時に、そのボトムを履かないと答えた理由について調査したところ、上位の短いパンツ、短いスカート共に、足を露出することに抵抗があるという意見がとても多く見受けられた。次に、年齢を意識する意見が多く、大学生には短い丈のボトムは厳しいと考え

ている人も多いことがわかった。長いスカートや長いズボンを履かない理由では、そもそも所持していない人や、好み、そして身長が大きく関わっていることがわかった。また、足を出したくない、足が太い、短く見える、周りの目が気になるという回答からは、周囲からの見られ方を気にしていることが読み取れる。全体的に好みだけでなく、自分に適しているかどうかという観点からボトムを選んでいると考えられる。この結果を見て、自分のスタイルや、周りの目を気にしないとしたら、よく履くボトム、あまり履かないボトムがどう変わっていくか、またその場合、どのような基準で選ぶのかが気になる結果になった。

表1 選んだボトムを履かない理由について（多数意見順）

	1	2	3	4
短いパンツ	足を出したくない	足が太い	年齢に不向き	好みではない
短いスカート	足を出したくない	足が太い	年齢に不向き	周りの目が気になる
長いパンツ	動きにくい	身長が低い	持っていない	足が短く見える
長いスカート	好みではない	似合わない	ダサい	持っていない

(4) 服を選ぶ際女子大を意識する学生は約2割

服を選ぶ際女子大を意識するかという問いに対し、全体の76.9%で100人の学生が意識しないと回答した。7割以上の学生は意識していないのに対し、23.1%に当たる30人の学生は意識していると回答した。過半数以上の学生は、服を選ぶ際に、女子大というイメージを重視していないことがわかる。

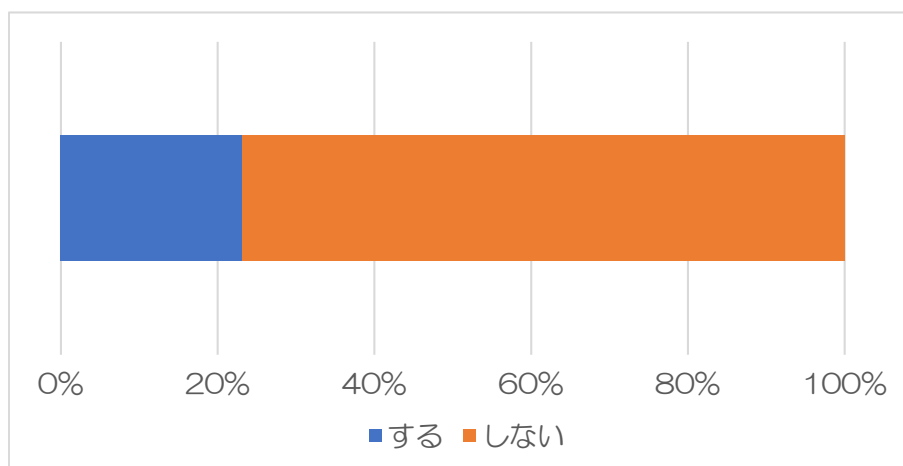


図4 服を選ぶ、女子大を意識するかどうか

(5) 女子大生のイメージは短いスカート

女子大生はどんなボトムが多いイメージがあるか調査した結果、最も多かったのは短いスカートで41.5%に当たる54人が回答した。続いて、長いパンツが36.2%に当たる47人、長いスカートが21.5%に当たる28人、短いパンツが0.8%に当たる1人という結果になった。女性というイメージから短いスカートが多いのに対し、短いパンツは1%にも満

たなかった。同じ短いボトムでもスカートとパンツでは圧倒的な差が出た。(1)の調査から分かったあまり持っていないボトムとの関係からも、短いパンツが、人気でないことがわかる。また、短いスカートは、イメージでは最も多いのに対し、(2)の調査を見てみると、実際履く人の数は少ない。これらより、女子大生に対するイメージと、実際に持っている、履くボトムとの間にギャップがあると分かった。

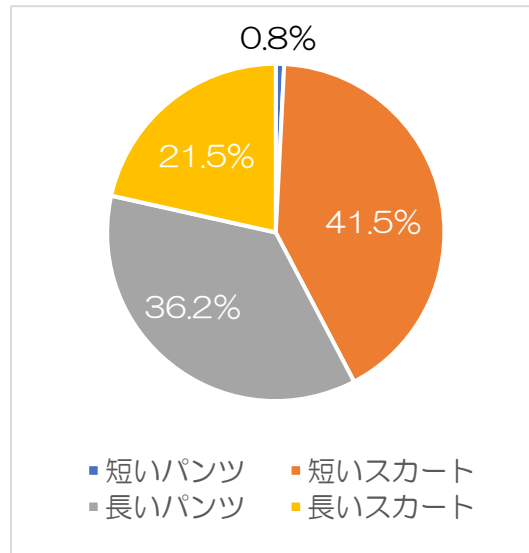


図5 女子大生はどのボトムが多いと思うか (n=130)

上の(4)(5)の結果より、女子大生のボトムに対するイメージを、女子大を意識するかどうかで分けてグラフにしてみたところ、図6、7のようになった。女子大を意識している学生(30人)は、短いスカート44%、長いパンツ33%、長いスカート20%、短いパンツ3%。意識していない学生(100人)は、短いスカート41%、長いパンツ37%、長いスカート22%、短いパンツ0%という結果になった。図6、7のグラフを見ると、女子大を意識する人も、しない人も女子大生はどのボトムが多いと思うかというイメージは同じくらいに見える。確認のために χ^2 乗検定を行うと、グラフを見る通り、女子大生を意識する人、しない人が持つ女子大生のボトムスのイメージには差がないことがわかった。 $(\chi^2=0.304)$

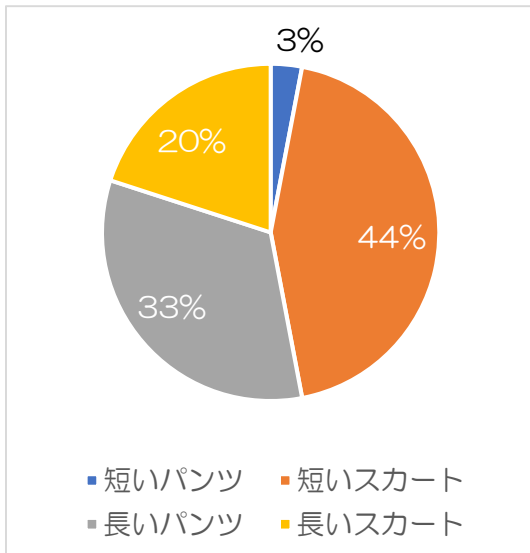


図6 女子大を意識する人が持つ
女子大生のボトムのイメージ (n=30)

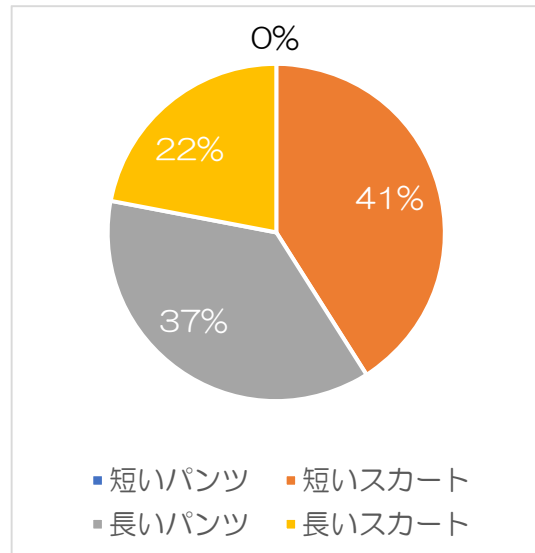


図7 女子大を意識しない人が持つ
女子大生のボトムのイメージ (n=100)

(6) 天候によって履くボトムを変える人は約8割

天候によって学校に履いていくボトムを変えるかどうか尋ねたところ全体の76.9%に当たる100人の学生が変えると回答した。変えると回答した学生に対して、晴れの日によく履くボトムは何か質問ところ、最も多い回答は長いスカートで38%、次に多く見られたのは短いスカートで28%という結果になった。同様に、雨の日によく履くボトムは何か質問したところ、最も多い回答は長いパンツで64%であった。これらを比べると、晴れの日の方が短いボトムを、雨の日の方が長いボトムを履く人が多い傾向が見られた。晴れの日には日焼けを気にして長いボトム、雨の日には足元が濡れたり、汚れたりするのを避けるために、短いボトムを履く人が多いのではないかと仮説を立てていた。晴れの日には62%が長いパンツと答えたため、大きく外れてはいなかったが、雨の日には、長いボトムを履くと答えた人が72%も見られ、仮説とは違い、圧倒的に長いボトムを履く人のほうが多いと分かった。

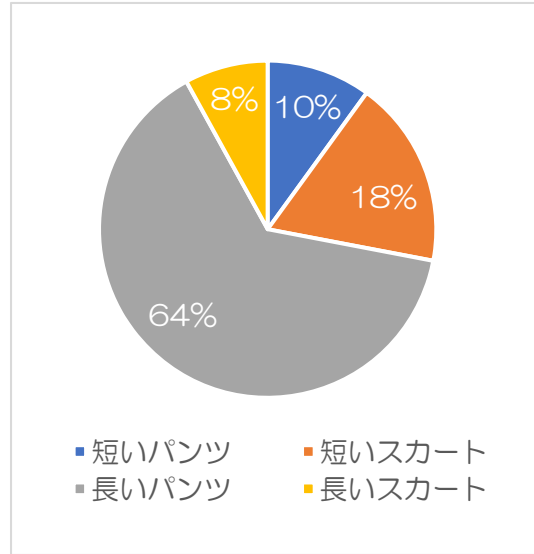
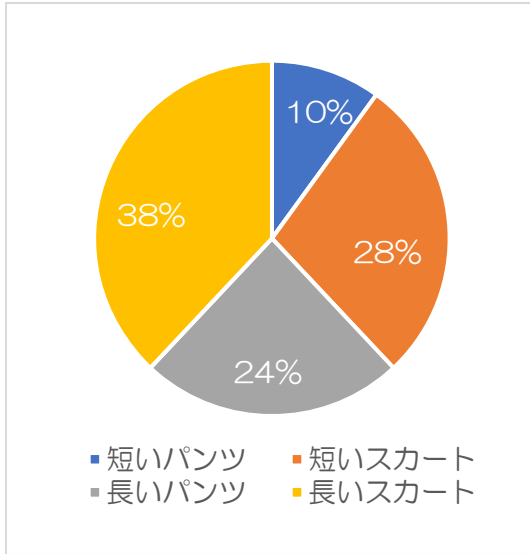


図 8 晴れの日に着いていくボトム(n=100) 図 9 雨の日に着いていくボトム(n=100)

(7) 授業後の予定によって履くボトムを変える人は約 7 割

授業後の予定によって履くボトムを変えるかどうかの質問に対し、全体の 69.2%に当たる 90 人が変えると答えた。変えると答えた人に、どんな予定で変えるのか尋ねたところ（複数回答）、77.8%に当たる 70 人が友達と遊ぶときと答えた。次に多かったのはアルバイトがあるときで 53.3%に当たる 48 人が回答した。アルバイトがあるときと答えた人の中には、「アルバイトのある日には、黒いパンツを履くと決めているため、服装が似がちである」と答えた学生がいた。その他と、回答した人は 1 人で、地元以外で買い物をする予定があるときと回答した。その日に誰に合うか、何があるかはボトムを選ぶ際に重要視されていると分かった。

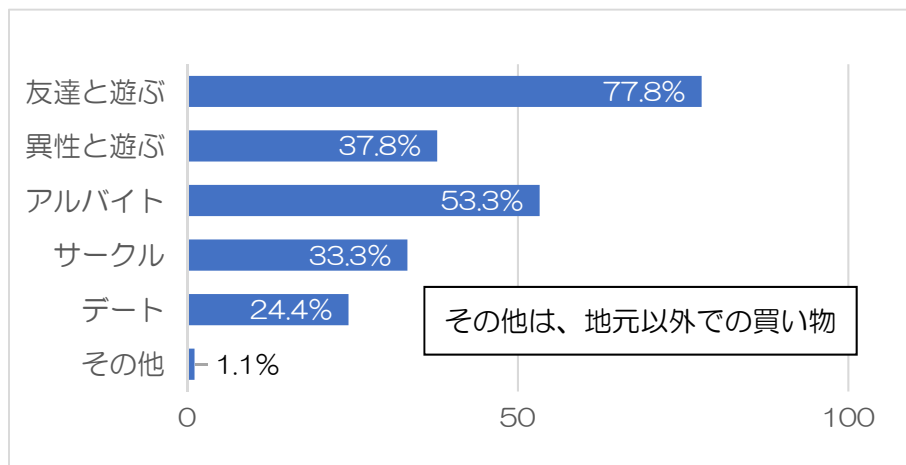


図 10 どんな予定でボトムを変えるか（複数回答）(n=90)

(8) ボトムを買うときの基準はデザイン

ボトムを買う基準は何ですかと尋ねたところ、機能性（楽さ・使いやすさなど）と答えた

人は 22.3%で 29 人、デザインと答えた人は 56.2%で 73 人、流行と答えた人は 4.6%で 6 人、値段と答えた人は 16.9%で 22 人であった。今回調査を行うに当たり、大学生はトレンドに敏感であったり、サークルや化粧品などで出費がかさんだりするため流行や値段を基準としてボトムを購入しているひが多いという仮説を立てたが、結果は仮説と異なりデザインを基準に購入している実践女子大生が多いことが分かった。日常履くものであるため、自分が気に入ったデザインを重視して購入していると考える。また、学年ごとに分けたところ、図 10 のようになった。やはり、どの学年もデザインを基準にしている人が最も多く、流行を基準にボトムを買うと答えた人が最も少ない結果であった。実践女子大生は流行にとらわれずに、おしゃれを楽しんでいるようだ。

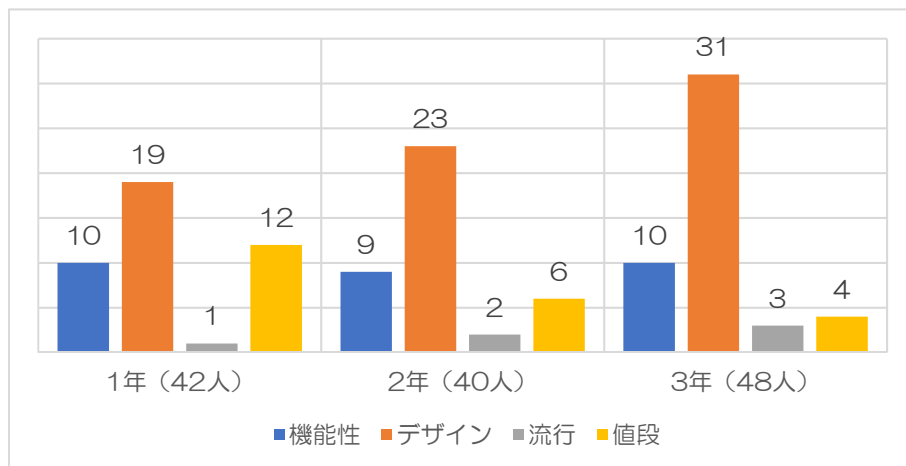


図 11 ボトムを買う基準について (学年別) (n=130)

(9) ボトムに付ける値段は半数が 3000~5999 円

ボトムに付ける値段は平均どれくらいですかと尋ねたところ、1000 円未満と答えた人は 2.3%で 3 人、1000~2999 円と答えた人は 38.5%で 50 人、3000~5999 円と答えた人は 51.5%で 67 人、6000~9999 円と答えた人は 5.4%で 7 人、10000 円以上と答えた人は 2.3%で 3 人であった。実践女子大生は 3000~5999 円で購入する学生が最も多く、それに次いで 1000~2999 円で購入する学生が多いことが見受けられた。このように、リーズナブルな値段のボトムを購入する人が多いことが分かった。また、10000 円以上と回答した 3 人に、大体いくらくらいか尋ねたところ、12000 円・15000 円・15000 円~30000 円であった。大部分を見るとリーズナブルなボトムを購入する人が多いがボトムに値段をかける人は高い人で 12000~30000 円と、かなりの差があることが分かった。

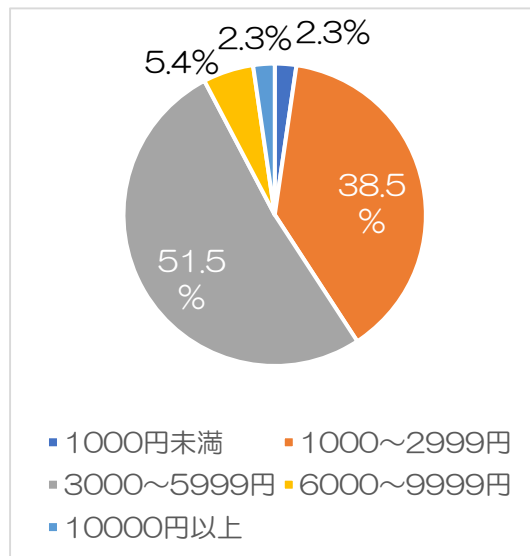


図 12 ボトムにかける値段 (n=130)

また、学年と値段に関係があると予想し、学年別でみると、学年が上がるにつれて 1000 円～2999 円のボトムを購入する人が減少し、3000 円～5999 円・6000 円～9999 円・10000 円以上のボトムを購入する人が増加していることが読み取れる。1 年生にも 6000 円～9999 円のボトムを購入しているひとがいるが、大学に入学するに当たり大学生を意識してボトムを高校時代より高いもので新調していることが予想される。一方の 2 年生は大学生活にも慣れて値段に関係なくおしゃれを楽しんでいるのではないだろうか。3 年生はお金もより多く持ち、大人を意識して高値のボトムを購入し始める時期だと考える。

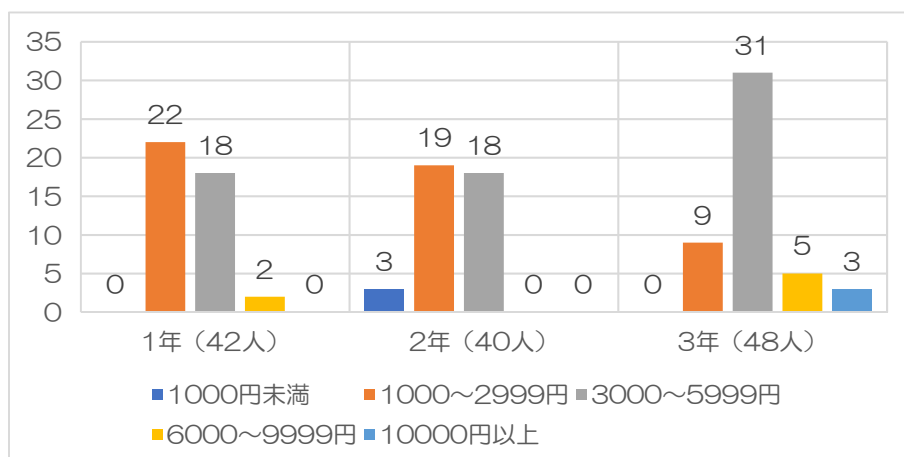


図 13 ボトムにかける値段 (学年別)

加えて、(1) で図 1 を用いて分析した、持っているボトムの枚数が 10 枚以下か 11 枚以上かでわけてみると、図 13 のようになった。持っている枚数が多い人のほうが 1 枚のボトムにかける値段は安くなるのではないかと予想をたてたが、予想とは反対の結果

になった。1000円未満と答えた人は10枚以下が2人、11枚以上が1人、1000～2999円と答えた人が10枚以下で34人、11枚以上で16人となっており、ボトムにかける値段が2999円以下の人は10枚未満で44%、11枚以上で34%となった。また、3000～5999円と答えた人はどちらも50%程度と違いはなかった。6000円以上を選んだ人は、10枚以下は3%、11枚以上は16%と、持っている枚数が多い人のほうが、ボトムにかける値段が高い傾向があった。

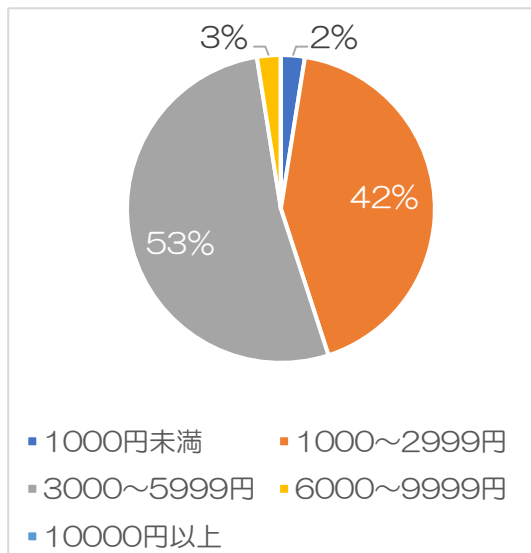
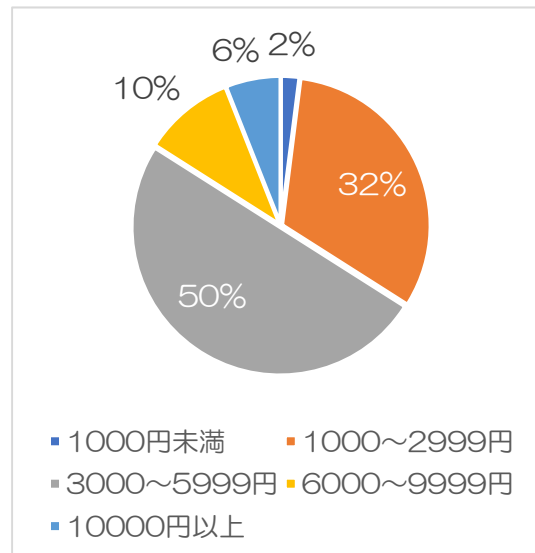


図 14 盛っているボトムの枚数が10枚以下の人のボトムにかける値段 (n=80)



10枚以上の人のボトムにかける値段 (n=50)

図 15 持っているボトムの枚数が

考察

今回の調査を通し、実践女子大生には長いパンツが好まれ、短いパンツはあまり人気がない傾向にあることがわかる。女子大を意識して服を選ぶと答えた人は予想より少なく、女子大生のイメージ調査と実際持っている、履くことが多いボトムのギャップがよりはっきりと見え、面白く感じた。授業後の予定によってボトムを変える人は、誰と会うか、何があるかが、選ぶ際に重要であると分かったが、その予定がある日にどんなボトムを履くかや、その理由を調べていれば、より実践女子大生のファッションに対する意識が見えて興味深い結果になったと思う。また、ボトムを買う基準は流行や値段が圧倒的だと考えていたために、どの学年でもデザインを重視する人が一番多かったのは、意外だった。値段については、傾向としては予想通りであったが、ここまで上に幅があったのは、予想を超えていた。実践女子大生への調査ではこのような結果になったが、他の女子大で同じ調査をして、実践女子大生の調査結果と比較したら、各女子大の色、イメージが出てきそうだったとともに、共学の大学で調査ができれば、女子大生の視点とは違った結果が出るのではないかと思い、結果が興味深い。Be面では、色やデザイン、素材などでグループ分けして傾向を見て、分析していきたい。